

2022年春号

市政
報告

完全無所属

柏市議会議員・社会保険労務士

北村かずゆき

この柏に
確かな未来を!

こんにちは。

コロナ出現から約2年が経過し、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置など、皆様の日常生活や仕事、学校や大学生活など多くの制約があり心苦しく思います。

今年に入り第6波の感染力が凄まじい中、多くの方々は無症状・軽症者であることや、感染者数がピークを脱し、現時点で医療が逼迫してないことは不幸中の幸いです。

今後も油断せず第7波を警戒し、基礎疾患をお持ちの方などはご留意頂き、医療逼迫状況を注視しつつ、コロナと共存しながら経済活動・文化活動・日常を取り戻すための出口戦略も必要と考えます。

私は災害・感染症・戦争など命や個人の尊厳に関わる事態の頻発に、国や行政・政治家の果たす役割はより一層増していると考えています。

下記、表面に市政情報、裏面に私の行なった一般質問の一部ですが報告書を作成しましたのでご覧頂ければ幸いです。

皆様のご健康と益々のご発展を祈念致します。

北村 和之



太田 新市政 始まる!

昨年11月に太田市長が誕生し、私は12月、3月議会で市長に先入観を持たず向き合ってきました。

市長は「住みやすい街ナンバーワン」を目指しています。

私も引き続き市民にとって何が良いかを常に考え「住みやすい街」へ取り組みます。

市長が表明した主な取組みを一部ご紹介致します。

◆コロナ対策（市単独で保健所を有する柏市として機能強化）※私が求めていたワクチン一括予約システム、無症状者への無料PCR検査なども導入済。

◆市立柏病院現地建て替え（前市長は老朽化を理由に移転表明も撤回、現地建て替えの判断もせず）

◆学校給食自校式維持（前市長は給食センター化をすると表明）

◆駅前送迎保育ステーション、こども広場、子ども図書館の設置

◆柏駅と市役所・ウェルネス柏間のバス運行

◆危機管理部（市内危機管理と防犯防災を担当）と広報部の新設（市民や市内外へ「伝わる」情報発信の体制を強化）

特に広報部の新設は、市民への情報発信をしっかりとするという姿勢を評価します。

今後の太田市長の柏市発展へのご尽力に期待します。



気候危機宣言（ゼロカーボンシティ）表明

もしかしたら、市民の皆様にとって気候変動・温暖化問題は今日明日の生活のなかで「自分事」と感じられないかもしれません。

しかし、私は生物が生きる地球環境や将来世代を考えるうえで重要で、特に政治がリーダーシップを発揮し取り組むべき優先課題のひとつだと考えています。

多発する自然災害、未知なるウイルスでの感染症、食糧危機など、気候変動や温暖化により更なる猛威を振るう可能性も否定できません。

この度、柏市は2050年までに二酸化炭素排出をゼロにする「ゼロカーボンシティ」を目指し宣言しました。

具体的には「太陽光発電設備の設置」、「公共施設のLED化」、「公用車の電気自動車化」などです。

この取組みが全ての問題を根本的に解決する訳ではないですが、市民の皆様も気候変動・温暖化に関心を持ち、出来ることを無理なく一緒に始めてみませんか。



令和4年度 予算成立 1,485億円

3月議会は予算議会とも言われ、次年度の予算や方針が決まる重要な議会です。

令和4年度一般会計予算は前年度から4.9%増の1484億7千万円となり、特別会計と企業会計を合わせ2,573億円となりました。

一般会計歳入のうち、市税は46%を占め686億円となっており、前年より33億円増です。

また、市税を含めた柏市が自主的に調達する自主財源は820億円（歳入の55%）となっています。（残りは国や県の交付金など）

この限られた予算の中で多くの事業を実施しますので、今後とも必要な事業の取捨選択など、しっかりとチェックしてまいります。

広報かしわ等 全戸配布実施表明！

現在、広報かしわ・選挙公報・議会だよりは主に新聞購読世帯への折込みで、約6割の世帯にしか届いておらず、私はワクチン、防災、福祉など命に関わることや市政情報はホームページへの掲載や一部の市民に届けば良い性質のものではないと考えます。

Q、行政と市民の双方向の情報伝達や情報公開は重要で、広報かしわ等の全戸配布実施を要望するがどうか。

A、ポスティングによる全戸配布は広報かしわ等の配布率向上や市民の皆様が市政情報を入手する手段として有効と考えており、実施に向けて具体的に検討する。

全世帯を目標に安定的にお届けできるようスピード感を持ち取り組んでいく。

がん対策取組み日本一のまち柏、表明！

生涯で2人に1人が罹患するがんを予防・早期発見・対処して、行政として最大限の支援をすることは多くの市民の健康に繋がり、不安や苦しみを緩和できると考えます。

Q、コロナ禍でのがん検診受診控えや検診率低下も危惧しており、検診率向上の行政仕掛けや支援も含め、出来得る限りの対策に取組み、「がん対策取組み日本一」を目指すことを要望するがどうか。

A、柏市がん対策基本条例にのっとり医師会・医療機関等の連携を図り、がん予防及びがん検診率向上等、具体的ながん対策の取組みを進めていく。

がん対策を充実させる事は行政として大切なことと考えており、がん対策日本一を目指していけるように頑張りたい。

校庭、市内グラウンド 芝生化推進

市民からボール遊びや居場所が欲しいなどのお話もあり、私も様々な用途での子どもや大人・地域の方々の居場所づくりが必要と考えていました。

今後、市内グラウンドや校庭の芝生化推進に粘り強く取り組んでいきます。

Q、市立グラウンドや校庭芝生化推進は市民や地域にとって大きな需要や価値を感じ、要望致しますが、芝生化に向けてメリット・デメリット、課題などをどのように認識しているか。

A、芝生化メリットとして、ヒートアイランド現象の緩和や景観の向上、雨水流出低減、心身のストレス軽減、リラックス効果、運動時の怪我の緩和、人々の活動が活発になり健康増進効果や地域の活性化やコミュニティの形成が期待される。

続き▶

AED 屋外ボックス設置を！

現在、市内に649箇所あるAEDのうち、公共施設では全て屋内に240台設置されています。

AEDを実施した救命ではデータ上で生存率向上が証明されており、24時間使用できない状態に問題意識があります。

Q、公共施設内に設置のAEDをボックスを利用して屋外設置とし、近隣センターや公民館、学校など、休日や夜間に使用できない状態から24時間いつでも使用できるAEDとし、市民の命を救える体制の構築を要望するがどうか。

A、市はAEDの使用及び心肺蘇生法の実施促進に努め、効果的かつ効率的な設置を計画的に推進するよう求められており、屋外設置も有効と考えている。

設置効果の高い公共施設の各施設と引き続き設置の協議を重ねていく。

現在、学校のAEDは校舎内に設置しており、学校関係者や校庭開放団体の市民の利用を考えれば、屋外設置は有意義である。



AED屋外ボックス

あとがき

プーチンの暴挙に対し非難すると同時に、平和を望む世界の国や人々の連帯を願います。

現実には第三次世界大戦や核戦争をここまで近く感じることに、改めて今日の日本の平和が世界の微妙なバランスの中で保たれていることを強く実感致します。

正直、今自分自身に何ができるのか無力感も感じます。

この度、私は4月から明治大学公共政策大学院に入学し、公共政策や地方自治、財政、福祉等々を学ぶことにしました。

将来、学んだことを少しでも柏市に還元できるよう大変ですが頑張っています。

災害・感染症・戦争など不確実な時代だからこそ、自分の役割や立場で出来ることに全力で取り組むことが結果的に社会全体の役に立つと信じています。

課題は、整備や維持管理に手間や費用が掛かると認識している。

今後の公共施設の芝生化には施設の状況や利用目的、市民ニーズを踏まえ、それぞれの施設管理者がどのような対応が可能か検討を行うことが必要である。

北村
かずゆき
連絡先

〒277-0054
千葉県柏市南増尾 2-8-27
TEL 090-7414-4205
MAIL k.kitamura1981@gmail.com

北村
かずゆき
プロフィール

1981年 9月16日生まれ
1994年 酒井根小学校 卒業
1997年 酒井根中学校 卒業
2000年 東洋大学付属牛久高校 卒業
2003年 拓殖短期大学経営学部経営学科 卒業
2006年 社会保険労務士試験合格
社労士事務所勤務

2010年 参議院議員秘書
～2014年
2015年 柏市議会議員選挙 初当選
2019年 柏市議会議員選挙 2期目当選
2022年 明治大学公共政策大学院 在学中
【現在】 社会保険労務士としても活動中
【趣味】 登山、読書、マラソン